

地方出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

月刊『歴史研究』を知っていますか 創刊600号の歩みと 購読者普及のお願い

文・全国歴史研究会 代表 吉成 勇

月刊『歴史研究』は、合資会社〔歴研〕が毎月刊行する、全国の歴史家、郷土史研究家、そして月刊『歴史読本』（新人物往来社発行）の愛読者の方々の研究発表の雑誌です。掲載される原稿のほとんどは在野史家、歴史愛好家の研究成果ですが、いわゆる学会誌とは異なるユニークな歴史研究誌として注目されています。

この月刊『歴史研究』は、平成24年（2012）4月号で600号を迎えました。創刊第1号は昭和34年（1960）1月号、『歴研会報』というタイトルで、B5サイズの4ページでした。トップ記事は「話題を呼ぶ紀元節問題一絶対反対の急先鋒三笠宮殿下」とあり、新説、宗教・地域伝承、民俗学、と歴史を多方面から見た記事が、凝縮されて掲載されています。

多くの歴史愛好者の思いに応える

当時の出版界は、〈全集物〉刊行のブームでした。文学全集や研究全集、城や寺社など、さまざまな全集が次々と出版され、その本の中には、必ずB6サイズの〈月報〉が差し込まれていました。〈月報〉は月単位で定期的に刊行される全集の付録、編集報告書的なものですが、旧人物往来社発行の『物語藩史』や『日本城郭全集』の月報として『歴史研究』が継続された時期もあります。今の型のA5サイズの冊子になったのは昭和41年6月号からで、通巻70号を数えていました。

このころ、すでに、歴史読物雑誌として定着していた月刊『歴史読本』へ、



特集：創刊600号と私の歴史研究/A5ソフトカバー・128ページ/定価700円+税

自分の原稿を掲載して欲しいと熱意の込めた投稿が、毎月沢山ありましたが、同誌の編集方針から、なかなか実現できませんでした。

しかし、それらを『歴史研究』の誌上で掲載することによって、多くの歴史愛好者の思いに応えました。

また『歴史研究』は、学者が想像もしない奇抜な視点の論考や、秘境に眠る歴史など、通説の影に隠れた伝承にもスポットを当てる役割を持っていました。現在の『歴史研究』の原点といえましょう。

歴史研究の発表の場

歴史研究のテーマは、古記録や古文書、あるいは研究図書の中にだけある

のではありません。ご自分の家の歴史や先祖の事績、家の周辺の史跡のいわれやふるさとの伝承など、身近な歴史の中に新解釈を見つけたり、定説に一言意見を言いたいことは意外と多いものです。そうした自由な歴史研究の発表の場が、『歴史研究』なのです。

また、『歴史研究』は毎月特集テーマを決め、自由な発想での論考を募集しています。テーマとなるのは、真田一族や足利一族を取り上げた〈名族シリーズ〉、熊本城や小田原城にスポットを当てた〈城郭シリーズ〉、吉野ケ里遺跡などにクローズアップする〈遺跡シリーズ〉、源平合戦や関ヶ原などの〈合戦シリーズ〉などのほか、金印の謎や日本刀の謎など多種多彩の上、異色のテーマもあります。ポピュラーなテーマに独自の視点を当て、自由に論説を展開できるのも、『歴史研究』の最大の魅力でもあるのです。

月刊『歴史研究』は、基本的には投稿雑誌ですので、自分の研究成果を投稿したいと思う方には全国歴史研究会への入会をお勧めします。会員となった段階で、投稿の資格を得られます。得意ジャンルが特集テーマに合致したら、挑戦してもいいですし、長年暖めていたテーマを、特別研究としてまとめてみるのもいいものです。まずは全国歴史研究会への入会が第一歩。

みなさんの原稿を拝読することをなによりも楽しみにしています。

全国の書店でも購読者普及に努める

歴史ブームといわれる昨今、歴史を趣味とし、歴史関連の書籍を読むだけでなく、城めぐりや史跡の旅を楽しむ人も増えていると聞きます。しかしながら、全国歴史研究会に入会し、月刊『歴史研究』を購読する方々は、「趣味」という範疇ではくくりきれない、歴史への情熱を持っています。職業や家族よりも歴史の探究を大切に思い、全存

在をかけて歴史に没頭する、その姿は、もはや“道楽”と呼ぶにふさわしい「のめり込み方」をしているのです。

こうした道楽に「はまり込むこと」を理解出来ない方々もいらっしゃるでしょうが、人生の本来の価値、人間としての究極の愉しみは、道楽に没頭することではないかと考えます。歴史を学ぶことが民族の誇り、国の力を高めることに繋がるのであれば、歴史を道楽として生きることは、日本の底力を強めていくことに繋がるのではないのでしょうか。無意識の情熱、精神の糧と

もいうべき“道楽としての歴史学”は日本の将来を動かす見えない力となり得るものと信じます。

しかし、この月刊『歴史研究』を知る人は、どのくらいいるのでしょうか。全国の書店において、月刊『歴史研究』を全く店頭で見ることができません。

このたび600号という投稿雑誌として、他に類を見ない金字塔を打ち立てました。600号に寄せられた投稿家のみなさんの思いをさらに広めるため、これからは全国の書店でも購読者の普及につとめたいと存じます。

出版業界各位のさらなるご支援を、ここにお願い申し上げる次第です。

(よしなり いさむ/合資会社[歴研]社)

《問い合わせ先》

合資会社 [歴研]

〒141-0031

東京都品川区西五反田2-14-10-504

TEL: 03-3779-3127

FAX: 03-3779-5063

メール: zrk@rekishikan.com

http://www.rekishikan.com/

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『作家の運命を変えた一冊の本 新装版』 ●塩澤実信著



森村誠一と『人間の証明』、大藪春彦と『野獣死すべし』、梶原一騎と『巨人の星』など、精神的に創作活動を続け、数々の作品を発表した作家には、のちの活動を決定づけるような作品があり、作品誕生までには必ずドラマが存在する。本書は前述の三人の他に阿佐田哲也、松本清張など十人の作家を取り上げ、時にはすさまじいまでの作家の半生を鋭く抉り取り、また編集者と作家との運

命的な出会いについても言及。単なる作家作品論ではない、話題作が世に出るまでの作家と編集者の舞台裏の物語が展開されている。『出版社の運命を決めた一冊の本』『創刊号に賭けた十人の編集者』と合わせ三部作の締めくくりとなる戦後出版史入門論。

◆2520円・四六判・269頁・出版メディアパル・千葉・2012/7刊・ISBN978-4-902251-77-7

『電気は誰がつくるのか ー再生可能エネルギーの現場』 ●山本 航著



自然の力を生かした再生可能エネルギーによる発電を日本で伸ばせるのかとの視点から、各地の取り組みを紹介する。市民風車で未来を描く茨城県神栖市、太陽光で街づくりを進める長野県飯田市、バイオマスで地域再生を目指す京都府宮津市、大分県別府市の観光を支える地熱発電、山梨県北杜市・都留市の小水力発電。地域の適性を見抜いた上で、やる気と工夫を出せば再生エネ発電はで

きることを確信する。経済のあるべき姿と健全な国・地域づくりに立ち返ってエネ経済会議を立ち上げた中小企業経営者、一方で原発維持にこだわる電力業界・政府の思惑などを対比させ、生活とエネルギーのあり方を考える。

◆1260円・四六判・149頁・機関紙連合通信社・東京・2012/7刊・ISBN978-4-905653-96-7

『歴史地震の話 ー語り継がれた南海地震』 ●都司嘉宣著



東日本大震災では未曾有との表現が頻繁に使われるが、歴史を辿れば、規模においてそれ以上のものは数多くある。著者は東大地震研究所で歴史地震学、津波の研究を進め、「日本書紀」に記された5世紀の河内国地震を最古の南海地震とし、以後現代まで1500年に及ぶ同地震の歴史を辿り、「高知新聞」に9年前から100回余に亘って連載してきた。江戸時代以降でも、慶長(1605)、宝永(1707)、

安政(1854)、昭和(1946)と規則性をもって発生している。こうした歴史の教訓から、避難場所・施設の確保など具体的な防災対策を提起すると共に、現状を冷静に分析すれば命を全うする知恵が導き出されるはずだと述べる。

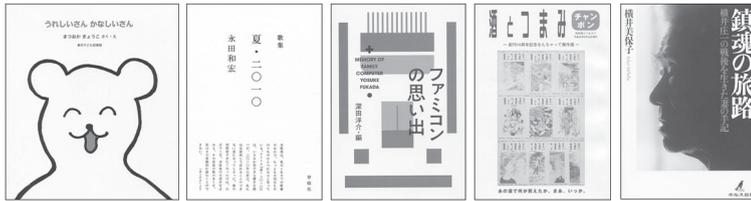
◆1785円・四六判・307頁・高知新聞社・高知・2012/3刊・ISBN978-4-87503-437-7

売行良好書

期間：2012年8月16日～9月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『うれしいさん かなしいさん』1050円・東京子ども図書館 (2)『夏・二〇一〇 歌集』2730円・青磁社 (3)『ファミコンの思い出』1365円・ナナロク社 (4)『酒とつまみチャンポン』1470円・酒とつまみ社 (5)『鎮魂の旅路』1260円・ホルス出版 (6)『物物』2940円・BOOK P E A K (7)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房 (8)『パターン認識と機械学習の学習』1050円・暗黒通信団 (9)『戦争していた国のおらが里』3990円・桂書房 (10)『いい会社をつくりましょう 新訂』1575円・文屋 (11)『全訳 遠野物語』1680円・無明舎出版 (12)『絵本の庭へ』3780円・東京子ども図書館 (13)『わが家の虫図鑑』2940円・トンボ出版 (14)『中国情報ハンドブック 2012年版』3150円・蒼蒼社



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『酒とつまみ ちゃんぽん』1470円・酒とつまみ社 (2)『東京かわら版 9月号』420円・東京かわら版 (3)『夜想#ぬいぐるみ』1575円・ステュディオ・パラボリカ (4)『三重の山城ベスト50を歩く』2100円・サンライズ出版 (5)『昭和プロレスマガジン 27』1000円・昭和プロレス研究室 (6)『平将門 武射・山辺風土記』1575円・崙書房 (7)『幕末の魁、維新の殿』2520円・弦書房 (8)『新訂 先祖の話』1890円・石文社 (9)『素数表150000』375円・暗黒通信団 (10)『あきたをおしえて』998円・くまがい書房

【ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書】※税込価格

- (1)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房 (2)『ペコロスの母に会いに行く』1260円・西日本新聞社 (3)『温泉番長ほっかいどう book 2』780円・海豹舎 (4)『信越トレイルを歩こう! 公式ガイドブック 改訂版』1365円・オフィスEMU (5)『THE BURGER MAP 首都圏版』1300円・幹書房 (6)『埼玉の川を歩く』1575円・さきたま出版会 (7)『ルポ・発達障害 あなたの隣に』1050円・下野新聞社 (8)『とほ 2011-2013』580円・とほネットワーク旅人宿の会 (9)『昆虫の図鑑 採集と標本の作り方 増補改訂版』3675円・南方新社 (10)『尖閣諸島』1470円・榕樹書林

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
 本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

トピックス — ★★

▼明治大学の生涯教育機関であるリバティアカデミーと本の街神保町を元気にする会が、昨年に引き続き、町の歴史や文化を知ることによって神保町の町づくり支援の輪を広げようと公開講座「本と映画と神保町 一本の街・神保町で考える part2」を開講することとなりました。「本の街神保町が、日本で有数の映画の街だったということは、意外に知られていません。1918年に火災により焼失してしまった錦町の錦輝館は、映画館発祥の地とも言われ、他にも南明座、シネマパレス、神田日活館…など、かつては神保町界隈にたくさんの映画館がありました。…映画に描かれた神保町や、作家が残した銀幕への熱い思い。本と映画と神保町をキーワードに、セピア色の神田神保町にタイムスリップしてみましょう」(リバティアカデミーサイトより)。会場は明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン11F。開催日時は10/6、10/20、11/10、11/24、12/8 各土曜日13:00～14:30。受講料は全5回5000円。詳細は、URL <https://academy.meiji.jp/> TEL03-3296-4423 FAX03-3296-4542 明治大学リバティアカデミーまで。

▼10月27日からの読書週間にあわせ、毎日新聞社の地方・小出版社連合広告『一冊と出会うよろこび〜地方・小出版の本』(10/26 全国版朝刊)掲載書籍を、八重洲ブックセンター4Fで展示販売いたします。10/26から2週間ほどのフェアとなります。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

